市民を愛する　市民に愛される　病院へ
荒尾市民病院
地域医療連携だより
第４７号（２０２３年１月発行）

小岱

地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　臨床研修病院（基幹型・協力型）
脳卒中急性期拠点医療機関/回復期医療機関
心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院/回復期医療機関　災害拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院　第2種感染症指定医療機関　地域周産期中核病院

新年のご挨拶　病院事業管理者　大嶋　壽海

あけましておめでとうございます。こころから新年のお慶びを申し上げます。新型コロナウイルス感染症は令和元年末中国で初めて報告されて早くも3年が経ち4年目に入っています。アルファ株、ベーター株、イプシロン株、デルタ株、オミクロン株、オミクロン株のBA-1～5さらにBQ-1と次から次と変幻自在に変異を繰り返し、波状的に人類に襲いかかってきています。ただ、ウイルスは変異を繰り返すうちに生き延びるために感染力は強くなっているようですが、毒性は次第に弱くなっているようです。感染者数をみると令和4年末時、世界で約6億千万人を超え、死者は6百60万人を超えています。一方、日本国内の感染者数は約2千6百万人、死者5万2千人を超えています。BA-5が主流の第七波は 8/19ピークとなり、26万人を超え過去最大となっています。以後また感染者数が漸減し、10/10には1万3千人ほどに減少しています。11月に入り、残り火が再燃するようにBA-5による感染者が増加に転じ、12/7には14万9千人に達しています。ところが12/14には19万人を超す1日新規感染者数に至っています。専門家によると主流ウイルスがBA- 5からBQ-1変わってきている可能性が高いようです。ある研究によるとBQ-1はBA-5に比べ、感染力は2.4倍であるが、毒性は同等か低いとの発表がなされています。確かに、院内感染を考えると従来と変わらない感染対策では信じられない感染経路が出てきています。症状は軽症が大半を占めていますが、基礎疾患がある高齢者は中等度や重症となる方もいます。この感染力が強く、毒性の低いウイルスに対する対策は、手指消毒、サージカルマスクの着用、換気とソーシャルディスタンスとオミクロン対策ワクチン接種が肝要と思われます。ワクチン接種を受けていれば罹患しても症状は軽く、後遺症も生じにくいと言われています。また、前述のように感染力が強いようなので慣れに流されることなくスタンダードプリコーションを確実に実行するなど感染対策を怠ることのない行動を取り、自分の身は自分で守るしかなさそうです。

さて、本院の今年は、何といっても新病院開院が最大の課題です。令和2年４月３日に新病院建設安全祈願祭を執り行い、工事が始まりました。現在、若干の遅れはありますが、地上5階地下1階の建屋の全貌がある程度わかるところまでできてきました。屋上にはヘリポートも備えます。10月1日に病院名を「荒尾市立有明医療センター」と改め、荒尾市唯一の急性期病院であり、地域中核病院として開院予定です。その後、現建屋を解体し、駐車場に変え、翌年11月にグランドオープンする予定です。新病院の病床数は274床で急性期は基本全室個室を特徴としております。新型コロナウイルスなどの感染症に対応した病棟(ゾーニング、空調、人工呼吸器に対するパイピング、専用エレベーター等)を備えた新しい病院です。また、全室個室化により、同室者間のトラブル(いびき、エアコンの設定や認知症など)や男性部屋と女性部屋などの問題が回避されます。

本院は、「いい病院づくり」をテーマに掲げ、荒尾市唯一の急性期病院、地域の中核病院として多くの医療・介護施設等との病診連携の輪を益々拡げて行く所存です。城北地域唯一の国指定地域がん診療連携拠点病院、県指定脳卒中急性期、県指定心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院を受けるなど城北地域の急性期医療に深く携わって参りました。新病院では最新設備を整え、より良い医療の提供をめざします。今年も本院をよろしくお願い致します。

新年のご挨拶　院長　勝守　高士

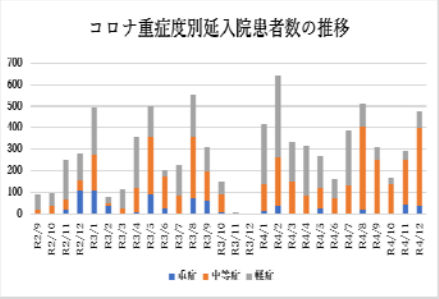
あけましておめでとうございます。令和5年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。旧年中は当院の活動にご理解を賜りご協力いただきましたことを衷心より厚く御礼申し上げます。

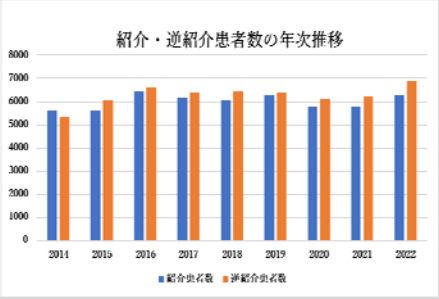
コロナ禍も3年になりますが、癌検診者数の減少が多数報告されています。当院の入院患者数もコロナ以前に比べて減少していますが、そのような中2022年は6284名の患者をご紹介いただき誠にありがとうございました。当院への紹介率は新型コロナ患者を除きますと64.7%と高く、当院からの逆紹介率も131.4%と高い値になっておりました。地域医療構想の中、病診連携が上手くいっていることが客観的に示され、大変嬉しく思います。

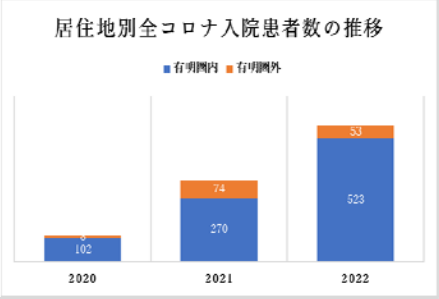
当院は有明地域の感染症指定医療機関としてコロナ診療のリーダーという立場ですが、有明地域WEB会議に毎回多数の医療関係者にご出席いただき誠にありがとうございます。お陰様で有明地域のコロナ診療は他地域に比べ極めて順調に進んでいます。当院のコロナ病棟入院患者数は2022年末までで延8209名（重症：720名、中等症：3706名、軽症：3552名）でした。月毎に見ますと2022年2月が最多で600名を超えました。また、有明地域外の患者が13.1%を占めており他の地域にない特徴と思われます。現在第8波に見舞われていますが、致死率は低いものの感染力が強いコロナ感染が救急医療を圧迫し、心血管疾患や外傷などの救命のために１分１秒を争う重症患者の救命率に影響を及ぼしています。今後とも効率的な病診連携を進め有明地域全体で全疾患の救命率UPを目指していきたいと思います。

ところで、当院の新病院建設は順調に進行中で、現在５階の高さまで工事が進んでいます。地下１階地上５階の上にヘリポートを設計しています。荒尾市立有明医療センターと改名し、10月に開院予定です。感染対策・プライバシー保護目的に急性期病床は全室個室です。救命率UP目的に救急の診断・治療の導線を最短化しました。患者の高齢化対策として外来診療の明確化・患者動線短縮としました。完成しましたら是非ご覧いただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染が一刻も早く終息し、本年が皆様にとって輝かしい1年となりますことを願い、有明地域の医療が更なる飛躍の年になりますよう祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。







新年のご挨拶　看護部長　東　かおる

明けましておめでとうございます。
新型コロナウイルス感染症への対策に尽力される中、関係機関の皆様方には、当院への変わらぬご支援とご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年度末よりコロナ第８波に入り、熊本県リスクレベルも3となり、収束がまだ見えぬ日々ですが、当院の荒尾市唯一の急性期病院、および地域医療支援病院としての病院機能が維持できるよう職員一同取り組んでまいります。

昨年当院は、日本医療機能評価機能３rd.ver2を受審いたました。大項目として「患者中心の医療の推進」「良質の医療の実践」「理念達成に向けた組織運営」それらの項目に応じた実践レベルでの評価がありました。職員一同が評価項目に取り組んだ事で、さらによりよい医療・看護を提供していく個人のモチベーションにつながりました。

看護部では、「患者中心の安全で質の高い看護を提供します。」の理念のもと、患者さんの一番身近な存在として、医療と生活の質の視点を持って、入院時より退院を見据え個別性に応じたケアの提供、健康回復への援助、退院支援に取り組んでおります。

さて、今年１０月には、「荒尾市立有明医療センター」となり、新たに地域中核病院として生まれ変わる予定です。withコロナとして１看護単位が感染症病棟となるのか、afterコロナとして４床の感染床となるのか現時点では不透明ではあります。いずれのケースにも対応できるよう教育体制や働く環境を整備し、質の高い看護が提供できるよう努力していきます。

今後とも皆様との連携を深め、地域住民の方々が、住み慣れたこの地域で安心して暮らしていけるように貢献していきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶　事務部長　上田雅敏

明けましておめでとうございます。

連携機関の先生方をはじめ職員の皆様方、介護・福祉施設の皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、皆様方から多くのお力添えをいただき、地域中核病院としての役割を果たすことができましたことに厚くお礼申し上げます。

さて、年末年始は寒波も和らぎ穏やかな新年の幕あけとなりました。あわせて、２年ぶりの行動制限のないお正月となり、数々のイベントが開催され、賑わいを見せているとの報道に接し、新型コロナ感染症は収束したのかと感じたほどです。

しかし、昨年末からは第７波と同等、あるいはそれを上回る程の勢いで第８波が猛威を振るっており、まだまだ収束は先の話です。今後も急性期医療が逼迫することの無いよう連携機関の皆様方のお力をお借りしながら、有明地域の安心安全を確保できるよう当院の使命を果たしてまいります。

いよいよ本年、有明地域の連携の拠点として１０月に「荒尾市立有明医療センター」が開院いたします。大変お待たせいたしました。すでに５階まで工事が進み年度末には全体像が姿を現します。診療科の充実、一般病棟の全室個室化、最先端の医療機器、分かりやすく使いやすい最新施設、まさにこれから永きに渡り有明地域の医療の中心となる病院となります。

開院後は、新病院をご活用いただき、連携機関の皆様方とともに大きく飛躍する年となることを願っております。

最後に、新型コロナ感染症の収束を願い、連携機関の皆様方のご健康とご活躍、そしてご発展を祈念して私の新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

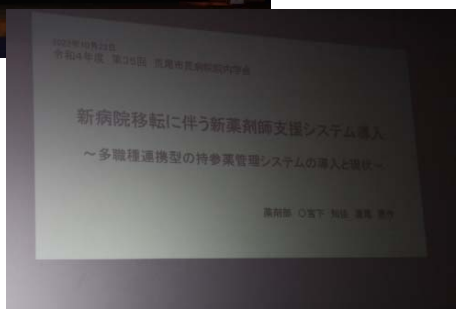
第35回　荒尾市民病院　院内学会

令和4年10月22日、荒尾総合文化センターにおいて第35回荒尾市民病院院内学会が開催されました。今年度は、「新病院開院カウントダウン～今、私たちが取り組むこと～」をメインテーマに、一般演題5題、新人発表4題、特別講演のプログラムで進行しました。

一般演題では、小児科医師より当院のCPT（Child Protection Team)の取り組みについて発表しましたが、小児医療にかかわる全てのスタッフが組織的に評価することで虐待の見逃しをなくし、こどもの安全を確保しなければならないと再認識させられました。

次に、検査科より、トロポニンTの定性検査と定量検査の比較検討についての発表でしたが、TnT定性検査より定量検査が超急性期の診断に有用であること示唆されたことから、当院での迅速な診断に期待が持たれます。

次は外科病棟看護師より、腹腔鏡下手術患者の術後経過と疼痛の関係についてでしたが、マニュアル的な疼痛管理だけでなく、術後の経過時間も考慮したアセスメントが必要だと感じました。



その他、薬剤部から新病院移転に伴う新薬剤師支援システム導入による業務の効率化と医療安全について。事務部からも新病院における医療DXの活用について発表しました。

そして今回の特別講演である筧教授からは、新病院開院がゴールではなく、患者様、職員が治療に専念できるような快適な環境を整備し、それをどのように維持管理していくのか、職員一人一人が強い認識を持たなければならないとお話しいただきました。また、病院の成長を考えるにあたり、将来を見据えて、時代のニーズに沿った病院づくりが重要だと感じました。

来年度は新病院に移転してからの開催になるので、一般演題、新人発表、特別講演に期待したいと思います。

傷病者受け入れ訓練

令和４年１１月１３日に傷病者受け入れ訓練が行われました。
荒尾市に大雨（土砂災害）警報が発令され、院内の被害状況の確認や土砂災害による家屋の倒壊などで発生した多数負傷者の受け入れを想定した訓練でした。
災害対策本部の設置、搬送班、２次トリアージ、各トリアージ区分での治療、伝令記録、負傷者と総勢104名で、それぞれの役割の確認を行ないながら実践さながらの訓練となりました。
今回の反省点や改善点を踏まえ来年度も充実した訓練になるよう活かしていきたいと思います。
また、くまもと県北病院のDMATチーム、歯科医師会、荒尾市役所の職員の方には様々な場面でご協力いただき感謝申し上げます。

《病院理念》

荒尾市民病院は、地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。

2 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。

3 患者の人権を尊重し、あたたかい心を持った医療人を育成します。

4 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

《患者さんの権利と責務》

1 あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。
2 あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。
3 あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。
4 あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。
5 あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。
6 良質な医療を実現するため、医師等に患者さんご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。
7 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。
8 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市民病院　地域医療連携だより「小岱」　第４７号　２０２３年１月発行
発　行：荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
連絡先：〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
TEL：0968-63-1115（内線536・537）　FAX：0968-62-4543
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -